

全国路地サミットin京都 実施報告書

日時：2023 年 10 月 7 日(土)～9 日(月・祝)

場所：ひと・まち交流館京都及び市内各地

1. テーマ：みんなで語る“路地の未来”～再生と次世代への継承～

1200 年の都・京都には、歴史的に形成された多くの路地があり、そこでは市民の多様な暮らしが営まれています。京都の路地は、京町家が軒を連ねる町並みによるヒューマンなスケール感、子どもたちが安心して遊べる空間、職住一体の暮らしやコミュニティを支える空間であり、長い歴史の中で培われた暮らしの知恵や文化が集積する都市空間であり続けてきました。その一方で、地震や火災に対する防災面での脆弱性をはじめ、住民の高齢化や産業構造の変化、それらに伴う空き家化・空き地化の進行、さらには開発圧力による路地そのものの消失など、さまざまな課題を抱えています。

このような中、近年、路地の保全・再生を目的とした地域主体の防災まちづくりが進展するとともに、特に最近では、路地の持つ魅力ある都市空間を再評価し、子育てや働く場等として路地を次世代に継承していく新たな路地再生の実践の数々が、NPO・民間事業者・専門家・行政およびそれらの連携によって進められています。

『路地サミット in 京都 2023』では、京都の路地で活動する人々を招いたシンポジウムと、市内の各所で開催するまち歩きを通し、京都ならではの多様な路地の魅力と路地再生の取り組みを発信するとともに、新たなパートナーシップが可能にする、次世代に継承すべき路地のビジョンについて、参加者と一緒に考えます。

2. シンポジウム(基調講演)：京都の路地とまちづくり

(10/7 13:00～14:00、ひと・まち交流館京都 大会議室、約 120 名参加)

第 1 部：魅力と課題：高田光雄氏(京都美術工芸大学 副学長)

京都には、長い歴史の中で形成された多様な路地がある。京都の路地文化は、町家で培われた生活文化と密接に結びついている。一方で、防災安全性の向上も重要である。

文化と安全を二者択一と捉えるのではなく、路地の多様性をベースとして、両者の止揚（アウフヘーベン）による減災文化を目指すことが重要である。

第 2 部：実態と整備手法：森重幸子氏(京都美術工芸大学 教授)

京都は都心部にも袋路が多く、制度的には袋路の 2 項道路からの除外が特徴である。2012 年に市の方針として「安全性の向上」と「京都らしさの維持・再生」を挙げ、助成制度、建築基準法上の道路の扱いの見直しや、地域まちづくりの推進、情報発信などが行われ、多様な路地を保全・継承していく環境が整えられつつある。

3. シンポジウム(クロストーク) (10/7 14:00~16:30)

第1部：新たな使い手たち×まちの視点

■テーマ

100 路地 100 通り。それぞれの工夫の元に多様な展開を実践中

(司会 大島祥子氏)

●ANEWAL Gallery の取組飯高克昌氏(NPO ANEWAL Gallery)

西陣の暮らしと文化、遊びに密着しながら、子ども・アートをテーマに多様な活動を実践。世界中の人と繋がりがながらの展開を紹介。

●めい・ゆいの取組と路地への目線扇沢友樹氏(不動産脚本家)

シェアハウスやリノベホテルの運営、路地での新しい事業展開。常に経営論や投資効果など客観性・論理性を忘れない「Think 鳥瞰、Act 蟻の目」な展開を紹介。

◆コメント：井上えり子氏(京都女子大学)

「暮らし」「生活文化」の継承の観点から、子どもの通学の安全性、地藏盆を通しての地域との繋がりなどをコメント

第2部：路地再生の実践者×プロの視点

■テーマ

路地再生の4つの壁(法規制、事業性、コミュニティ、所有者(意思決定等))を工夫と努力で超え商品として供給(司会 大島祥子氏)

■八清の取組(西村孝平氏)

既存不適格の京町家だけでなく、再建築不可の路地奥物件も手がけ、事業性を確保。一方、事業性・技術・近隣や所有者との調整・金融など、商品化していくための様々な試みを紹介。

■梶谷繁礼氏の取組(梶谷繁礼建築研究所)

建築家として建物単体の再生だけでなく、京都の街区など歴史的文脈を読み解き、可逆的な工夫を凝らし、そして事業性を確保するための様々な工夫を紹介

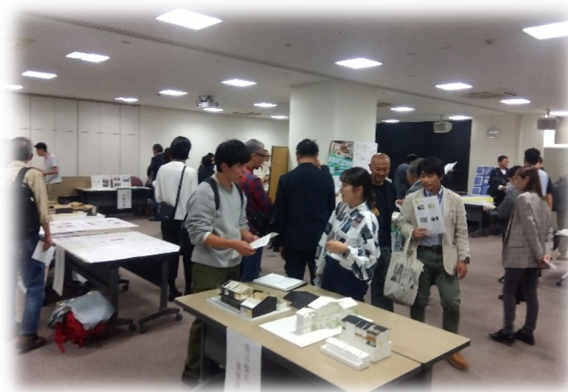
◆コメント：吉原勝己氏(NPO 福岡ビルストック研究会)

福岡の急激に進む開発の中で路地が消滅している事例を紹介しながら、路地の可能性について九州での取組を踏まえながらコメント。

4. 交流会 (10/7 16:45~17:45、ひと・まち交流館京都 ワークショップルーム)

17 団体から資料(リーフレット、模型等)提供があり、活発な交流が行われました。

資料提供者一覧
京都市
(公財)京都市景観・まちづくりセンター
株式会社めい(クロストーク)
NPO ANEWAL Gallery(クロストーク)
奥谷繁礼建築研究所(クロストーク)
株式会社 八清(クロストーク)
NPO 福岡ビルストック研究会(クロストーク)
京都美術工芸大学(実行委員会)
京都光華女子大学(実行委員会)
都市居住推進研究会(実行委員会)
現代美術製作所(実行委員会)
スタジオ・カタリスト(実行委員会)
(株)サンワコン(実行委員会)
全国路地のまち連絡協議会
過年度の“路地サミット開催地”
NPO 向島学会
ドンツキ協会



5. 懇親会 (10/7 18:30~20:30)

鴨川の夜景を眼下に望む“マールカフェ”に移動し懇親会が開催されました。懇親会には、シンポジウム登壇者を含む全国で路地再生に取り組む関係者約60名の参加があり、2時間の懇談を楽しみました。

【余興：お土産争奪！】

第1回京都路地クイズ王選手権】

Q:路地サミットのチラシにある写真の路地はどの区にあるのでしょうか？⇒上京区

Q:京都で路地の読み方は？⇒？ろうじ 他

Q:京都市発刊の『ろじマチ通信』で出てくるネコのキャラクター名は？⇒ひにゃんこ

Q:西陣の正親エリアにある路地の名前はどれでしょう？⇒赤レンガ路地 など等

最後は、次回サミット開催地静岡県下田市の松本市長から“乾杯”による中締めをいただき、懇親会は無事終了しました。



4. まちあるき(有料:2,000円/コース) 延べ約100名参加(スタッフ含む)

コース①: 西陣の花街と工房(上七軒界隈) (10/7 9:30~11:30)

案 内 人	富家 裕久氏 (富家建築設計事務所)
コース概要	地元出身の建築家と巡る、西陣織とアーティストの工房を花街の路地で繋ぐまちあるき
参 加 人 数	参加者9名、スタッフ3名



コース②: 下京の辻子めぐりと奥谷繁礼建築研究所の町家・長屋(10/7 9:30~12:00)

案 内 人	奥谷繁礼建築研究所
コース概要	膏薬辻子の入り口に建つ「郭巨山町会所」からスタートし、河原町五条辺りから高瀬川に繋がる路地の奥に建つ「ウラの長屋」まで下京の路地を巡りながら、奥谷繁礼建築研究所設計の町家や長屋も見学
参 加 人 数	参加者9名、スタッフ3名



コース③: 路地再生の実例2か所深堀ツアー (10/8 10:00~12:00)

案 内 人	森重 幸子氏 (京都美術工芸大学教授)
コース概要	色々な制度や手法を活用し、路地奥の長屋を一体的に改修・再生した実例2か所(五条坂なかにわ路地、もみじの小路)を見学。実際の利用者の声も聞く予定。
参 加 人 数	参加者10名、スタッフ2名



コース④: 陶芸と坂のまち今熊野エリアの路地めぐり(10/8 10:00~12:00)

案 内 人	小原 亜紗子氏(Roomie)
コース概要	陶芸で栄えた坂のまち東山・今熊野学区周辺エリアで、路地をめぐりながら、小さな私設図書館や芸術家のシェアアトリエ、コミュニティスペースなどを巡る
参 加 人 数	参加者8名、スタッフ4名



コース⑤：ドンツキクエスト in 西陣 (10/8 10：00～12：00)		
案 内 人	齋藤 佳 氏(ドンツキ協会会長)	
コ ー ス 概 要	「行き止まりにこそまちの個性がある」をモットーに、全国の行き止まり(ドンツキ)を独自の視点で観察・研究し、その魅力を発信・提案する「ドンツキ協会」。会長の齋藤佳さんと一緒に、西陣エリアの路地を巡りつつ「ドンツキの探訪」(ドンツキクエスト)を実施	
参 加 人 数	参加者12名、スタッフ3名	
コース⑥：路地中のヨシツネ伝説(船岡山・紫野学区界限) (10/8 13：00～15：00)		
案 内 人	飯高 克昌氏 (NPO ANEWAL Gallery)	
コ ー ス 概 要	路地を歩けばヨシツネ伝説が見えてくる。歴史と伝説が交錯する紫野の路地あるき。	
参 加 人 数	参加者9名、スタッフ6名	
コース⑦：西陣の路地“路地草めぐり” (翔鸞・柏野学区界限)(10/9 10：00～12：00)		
案 内 人	重本 晋平 氏 (まちくさ博士・NPO ANEWAL Gallery)	
コ ー ス 概 要	路上の草に名前をつける「まちくさ」ワークショップで知られるアーティスト重本晋平と共に京都の路地を草から観察。	
参 加 人 数	参加者4名、スタッフ3名	
コース⑧：路地に聚楽第を探して(桃園・聚楽・正親学区界限) (10/9 13：00～15：00)		
案 内 人	仲 治實 氏 (上京おもてなし大使)	
コ ー ス 概 要	天下人 秀吉が造営した聚楽第跡と路地中に残るその痕跡を巡るまちあるき。	
参 加 人 数	参加者8名、スタッフ4名	

全国路地サミットとは？

全国における路地(街なかにある昔からの狭い道)まちづくりの取組みに関する情報交換の場として、また連携していく仲間をはぐくむ交流の場として、2003年(平成15年)より全国各地で開催しています。

「全国路地サミット in 京都」は18回目の全国路地サミットであり、路地まちづくりに関わる有志による実行委員会が主催となり、京都市における路地まちづくりを全国に発信するために開催しました。

主催：路地サミット in 京都 実行委員会

共催：全国路地のまち連絡協議会

後援：京都市まち再生・創造推進室、(公財)ルネッサ地域文化振興財団、(公財)京都市景観・まちづくりセンター

■全国路地サミット in 京都 実行委員会

	氏 名	所 属 等
実行委員長	高田 光雄	京都美術工芸大学 副学長、大学院建築学研究科長
実 行 委 員	森重 幸子	京都美術工芸大学 建築学部建築学科 教授
〃	大島 祥子	スーク創生事務所代表 京都光華女子大学キャリア形成学科准教授
〃	飯高 克昌	NPO ANEWAL Gallery
〃	曾我 高明	現代美術製作所 ディレクター
〃	松原 永季	スタジオ・カタリスト 代表
〃	東 義博	株式会社サンワコン
〃	藤原 英一	株式会社サンワコン